

京芸通信

2020年の出来事

本学収蔵品で魅せる140年の歴史

創立140周年記念企画などを多数実施



松宮芳年「堺の相生橋」
1911 / 創立140周年記念展
(2020年6月27日-8月2日・
京都市立芸術大学芸術資料
館陳列室)

1880年の京都府画学校創立から、本学は2020年7月で140周年を迎えました。

本学の芸術資料館には、日本最古の公立芸術大学として、明治期から現在まで歴代の卒業・修了作品が収蔵されており、

本学の貴重な収蔵品を活用した記念展を開催しました。

また、京都府画学校の初代摂理・田能村直入の寄贈による中国絵画を主題とした企画展『南宗憧憬』では、ワークショップ等に本学の学芸員・教員・在学生が取り組みました。

さらに、今年度は本学ギャラリー@KCUA開館10周年でもあり、両記念企画として『芸術資料館収蔵品活用展 横内賢太郎「誰もに何かが」』を@KCUAで開催しました。

この企画では、アーティストにとっての異文化との接触やコミュニケーションをテーマに、厳選した収蔵コレクションと現代作家の両作品を展示しました。



横内賢太郎「Cultural grafting - study rh」2016 (撮影: 来田 猛)
創立140周年 / @KCUA開館10周年記念 横内賢太郎「誰もに何かが」
(2020年9月12日-10月25日・京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA)

インターメディアとしての「能」

スタンフォード大との共同研究成果が公開



日本伝統音楽研究センターとスタンフォード大学が6年をかけて制作したウェブサイト「Noh as Intermedia」が公開されました。本ウェブサイトでは金剛流の能を所作や謡、囃子の要素に分解し、それぞれの意味を解き明かしています。さらに、金剛永謹氏(金剛流宗家、本学客員教授)の監修のもと、実際の映像・音をつけて分析を加えており、能楽のおもしろさを全世界に発信しています。

<http://noh.stanford.edu> (*英語のみ)

世界レベルのマスタークラスを

ピアニストのパスカル・ドゥヴァイヨン客員教授によるマスタークラスを開催

今年度から新たに本学客員教授に着任した、ヨーロッパを代表するピアニスト パスカル・ドゥヴァイヨン氏によるピアノマスタークラスを2020年10月23日に開催しました。ピアノ専攻の6名の学生に対し、ショパン、シューマン、メトネルなど幅広い楽曲を直接指導いただき、その様子を学内関係者限定で公開しました。学生たちにとって大変刺激的で貴重な時間となりました。



外に開かれた“テラス”のような大学へ

本学の国際交流に関する取組が
京都市の「京グローバル大学」促進事業として採択

京都市の「京グローバル大学」促進事業(※)に、本学の「外国人留学生の受入体制整備と受入増加に向けた取組」と、そのための海外への情報発信に重点を置いた取組である「キャンパス移転を契機とする国際交流の推進—京都芸大：外に開かれた「テラス」のような大学を目指して—」が採択されました。今後も更なる国際交流の継続・発展に取り組んでまいります。

※「京グローバル大学」促進事業は、大学・学生の国際化に係る新たな取組を進める大学の、更なる留学生の誘致や、グローバルな視点を持った京都の未来の担い手の育成等を支援する事業です(期間は4年間)。

地下鉄の通路に“運河鉄道”

KYOTO駅ナカアートプロジェクト2020

京都市と市内の芸術系大学の連携事業「駅ナカアートプロジェクト」では、学生作品を各駅に展示することで魅力的な京都のまちづくりの一助となることを目指しています。本学が担当したのは二条城前駅。デザイン科の学生3名による作品『運河鉄道「ものを運ぶ運河 人を運ぶ鉄道」』は、2020年8月18日から10月31日まで、地下通路の壁面に展示されました。



京都駅で京都芸大移転をPR

学生作品と新キャンパスの模型を展示

2023年中に予定している京都駅東部地域への移転をPRするため、京都駅の西口広場において、2020年10月10日から11月3日までの期間、本学美術研究科修士課程の学生による平面と映像の作品と新キャンパスの模型を展示しました。また、会期中は音楽学部生による弦楽四重奏のミニコンサートも開催しました。



個性豊かな作品や演奏を オンラインで世界に発信

オンライン芸大祭2020「MONSTER!!!」配信

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、芸大祭そのものは中止となりましたが、学生有志で特設ウェブサイトを立ち上げ、オンラインでの開催を実現させました。展覧会や演奏会、過去のミュージカル公演の記録動画の配信のほか、小物や冊子の販売など、学生自らが考案・運営し、工夫を凝らしたイベントとなりました。今年度のテーマ『MONSTER!!!』には、普段の大学の様子を知らない方も心の底から楽しめて、同時に恐ろしささえ感じる「芸術」の技を感じ取って欲しいという思いが込められました。



2020年度オンライン芸大祭「MONSTER!!!」
10月31日から11月2日まで特設サイトを公開

学生作品の購入により制作者を支援

京都銀行 美術研究支援制度

今年度20回目を迎えた、京都銀行の「美術研究支援制度」では、今年度も8点、これまでに計157点の学生作品を御購入いただいております。2020年12月9日に目録贈呈式があり、京都銀行から今年度の対象者に目録が手渡されました。今回御購入いただいた作品は、2021年1月12日から2月19日まで、京都銀行本店営業部1階ロビーにて展示されます。



大阪万博から50年 幻の音を再現

バジェの音響彫刻展を@KCUAで開催

1970年の大阪万博でバジェ兄弟により製作された、音が鳴るオブジェ「音響彫刻」は、閉幕後すべて解体されていきました。2020年11月7日から12月20日まで本学ギャラリー@KCUAで開催された本展では、本学の作曲専攻と彫刻専攻が手を組み修復を手がけたものを含む5基の音響彫刻を展示。会期中はコンサートやパフォーマンス、ワークショップを開催し、個性的な音を放つバジェ音響彫刻の魅力を紹介しました。



公開講座もオンラインで

研究センターの成果を動画で配信

本学の日本伝統音楽研究センターで定期的に行われている市民向けの「伝音セミナー」をはじめとする公開講座や、芸術資源研究センター主催の研究会やシンポジウムを、今年度はオンラインで配信中です。どなたでも参加いただけますので、是非お気軽にご覧ください。



オンライン伝音セミナー「京都六斎念仏の今：桂六斎念仏を中心に」2020年12月9日



芸術研究シンポジウム「デジタル時代の(記憶機関)芸術/大学における図書館・美術館・アーカイブ」2020年11月28日



その他オンラインで開催するイベントは、本学ウェブサイトをチェック!
<https://www.kcuu.ac.jp/category/event/>

京都市立芸術大学 広報誌 Vol.26 January 2021

京芸通信

Kyogei Tsushin

26



Feature 特集

新型コロナウイルス感染症への対応

コロナ禍の中で迎えた140周年 / オンライン授業の整備・対面実技指導の再開 / ウェブオープンキャンパスの開催 / 無観客公演の配信から来場型公演の再開へ

Topics 京芸トピックス

2020年の出来事

本学収蔵品で魅せる140年の歴史 / インターメディアとしての「能」 / パスカル・ドゥヴァイヨン客員教授マスタークラス / 「京グローバル大学」促進事業への採択 / KYOTO駅ナカアートプロジェクト / 京都駅に新キャンパス模型を展示 / オンライン芸大祭 / 京都銀行 美術研究支援制度 / 音響彫刻展 / オンライン公開講座

News お知らせ

2020年度新任教員 / 新部局長体制 / 大学移転の動き / 退任記念展のお知らせ / 寄付者のご芳名一覧

KCUA 140th Anniversary
京都芸大
140th
京都とともに 芸術とともに

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —



理事長・学長
赤松玉女

入学式は中止 そして休校 学生も教職員も困惑した前期授業期間

新型コロナウイルスが全世界に猛威を振るう中、本学でも入学式の中止に加えて、授業開始日を延期し、当分は登校禁止とする措置をとりました。5月11日から授業開始となったものの、登校禁止措置は継続し、すべての授業を遠隔で対応することとなりました。実技教育の比重が大きい芸術大学にとって、対面授業ができないというかつて経験したことのない難題に向き合う期間となりました。



久保尚子さん(工芸科1年生)
入学して初めて登校できた時は、今までオンライン上だけで制作を共にしてきたメンバーに会うことができ、本当に嬉しかったです。自宅での制作よりも、大学で他の人の制作過程をみたり、友人や教員とコミュニケーションをとりながらの制作の方が、刺激が多く学びも大きいです。



同じ空間でこそ伝えられることがある 対面での実技指導を本格再開

春の緊急事態宣言に伴う大学施設の使用制限・外出自粛要請期間は、オンラインでは伝えきれない技術的な指導が肝となる芸術大学にとって、試行錯誤を重ねる期間となりました。これまで当たり前でできていた対面指導の尊さ、そして本学の特徴である少人数・小規模という教育環境に込められた価値を再確認することとなりました。要請解除後は、万全な対策の上で、対面での実技指導・レッスン等を順次再開していきました。



大嶋義実 副学長(管・打楽専攻教授)
今や世界のどこにいても超一流オーケストラを生配信で聴ける時代になりましたが、クラシック音楽にとって大切なことは、ひとの身体が持つ温かみを感じ取れる空間を共有することです。時間の共有だけでは漏れ落ちる音楽の熱を、リアルなレッスンが伝えてくれました。

コロナ禍の中で迎えた140周年

新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の事態となった2020年、本学は創立140周年を迎えました。感染拡大は本学にも大きな影響を与え、入学式の中止や遠隔授業の実施など、異例の年度始まりとなりました。現在は、学生と教職員の健康を最優先事項としつつ、万全の対策をとって、研究と教育に取り組んでいます。140年前、本学の祖となる京都府画学校が創立された頃は遷都で京都が厳しい状況下でした。また音楽学部の前身の音楽短期大学がうまれたのも、第二次世界大戦後の混乱の中でした。長い歴史を振り返ると、京都芸大は、苦しい時にも芸術で社会に資する人材育成に取り組むことで復興の道を模索してきたことがわかります。今後も、豊かに生きるために芸術は必要不可欠である信じ、未来につながる芸術大学のあり方を求めて、この危機的状況乗り越えたいと思います。



総合基礎実技をオンラインで 自粛解除後の初顔合わせは7月

初めての遠隔授業だったために、学生も教員も試行錯誤の連続でした。美術学部1年生必修の「総合基礎実技」の授業では、専攻や科の枠を超え混成されたチームにおいて、直接顔合わせもできない状況下、学生も教員もオンラインでのやり取りを進め、それぞれの課題に取り組みました。初めて校内で共同制作・発表ができたのは、7月の中旬。やっと仲間に会えた学生たちの歓声が教室に響きました。



演奏会を安全に楽しんでいただくために さまざまな発表形態を探った一年間

ピアノフェスティバルは無観客で開催

2020年6月25日、第34回ピアノフェスティバルを府民ホール アルティにて無観客(関係者のみ)で開催し、その動画を7月3日から10日まで公開しました。学生たちは自宅での個人練習やリモートレッスンなどで準備を整え、それぞれの思いを込めて演奏しました。毎年御支援をいただいている京都ライオンズクラブのほか、今回は株式会社JEUIGIAとパーゼンドルファー・ジャパンの御協力により、同社のグランドピアノを使用して教育成果を披露しました。新型コロナウイルス感染症が拡大する中、今年度最初の本学主催コンサートとなりました。

特別演奏会「オーケストラ協演のタペ」を ライブ配信

中止となった夏の定期演奏会のソリスト候補者が、オーケストラと奏する特別な演奏会を、2020年10月20日、本学講堂にて無観客(関係者のみ)で実施し、その様子をライブ配信しました。ティンパニ、ソプラノ(声楽)、ヴァイオリン、ピアノの協奏曲という多彩なプログラムをお届けしました。

冬の定期演奏会は100名限定で公演を実施

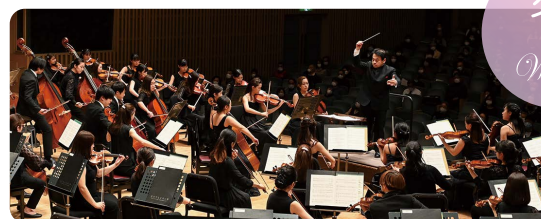
2020年12月4日、京都コンサートホールにて開催した第164回定期演奏会は事前申込制とし、100名の方を無料で招待しました。本学創立140周年を記念し、本学の演奏会では初出演となる高関健氏を招き、下野竜也教授と2名のタクトによる名曲の数々を披露。更に酒井健治専任講師による作品が演奏され、クラシックから現代音楽まで聴きどころ満載の豪華なプログラムでお届けしました。入場人数に限りはありましたが、生の音楽が届けられる喜びを実感するひとときでした。

動画で各専攻の特色を配信 WEBオープンキャンパスの開催

毎年恒例の美術・音楽両学部のオープンキャンパスを、今年はウェブ上で開催しました。学長と両学部長のメッセージのほか、美術学部では、各専攻の紹介動画やライブ配信、オンラインでの個別相談会など様々な企画を実施。音楽学部では、紹介動画の配信、オンラインでのガイダンスに加え、学内においても、在学生の生のレッスン見学を完全予約制で実施しました。



玉井 元さん(弦楽専攻4年生)
コロナ対策で音段とは違う距離感で演奏する難しさはありましたが、同世代のオーケストラをバックに、世界的な指揮者である下野先生の指揮のもと、ソリストとして演奏でき、しかもその様子が全世界に配信され、特別で貴重な経験ができました。



秋

Autumn

冬

Winter

京都芸大からのお知らせ

2020年度新任教員 2020年度、本学に6名の教員が着任しました。



正垣雅子 准教授
日本画



翟建群 特任准教授
日本画



人長果月特任准教授
構想設計



谷川嘉浩 特任講師
プロダクト・デザイン



飯田真人 教授
共通教育



宇佐美朋子 特任講師
教職

新部局長体制

公立大学法人役員

赤松 玉女	理事長(兼 学長)
上田 誠	副理事長
石原 友明	理事
津崎 実	理事
渡辺信一郎	理事
安保 千秋	監事
長谷川佐喜男	監事

副学長・部局長

大嶋 義実	副学長
小山田 徹	美術学部長(2020年9月18日～)
栗本 夏樹	美術研究科長
砂原 悟	音楽学部長
山田 陽一	音楽研究科長
渡辺信一郎	日本伝統音楽研究センター所長
森野 彰人	芸術資源研究センター所長
藤野 靖子	学生部長・キャリアデザインセンター長
阿部 裕之	情報管理主事
礪波 恵昭	附属図書館長・芸術資料館長
天沼 憲	移転準備室長
後藤 天平	事務局長

移転の動き ― 移転準備室が始動！

2023年中の開学を目指して取り組んでいる京都駅東部への大学移転については、2020年3月、実施設計が終了し、移転予定地では既存建物の撤去工事が行われ、新しい校舎の建設に向けた準備が進められています。本学でも、2020年4月に学内の各機関が連携し移転を円滑に推進するための組織として、「移転準備室」を設置しました。本学が積み重ねてきた歴史を継承しつつ移転を機に新たな挑戦を行っていくため、2021年は全学を挙げて移転に取り組んでまいります。

ご支援ありがとうございました

2020年1月～12月、「未来の芸術家支援のれん百人衆」にご寄付いただいた方々をご紹介します。

*公表に同意いただいた方(敬称略、五十音順)

- イムラアートギャラリー
- 巖本博
- イントロン株式会社
- 天ぶら園堂
- 株式会社大垣書店
- 株式会社岡野組
- 京都信用金庫
- 京都みなみ会館
- 株式会社茶寮都路里
- 医療法人知音会
- 株式会社トーセ
- 戸塚亮一
- 西陣織工業組合
- 株式会社西利
- 公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金
- 畑正高
- 株式会社ハトヤ観光
- 株式会社フラットエージェンシー
- 村山造酢株式会社
- 渡辺孝史

退任記念展の お知らせ



堀口豊太教授 退任記念展
「日本という場所・A Place Called Japan」
会期 2021年3月27日(土)～4月11日(日)
会場 本学ギャラリー@KCUA(アクア)
(堀川御池ギャラリー内/京都市中京区)
URL <https://gallery.kcuu.ac.jp/exhibitions/>